

## 第4回生月町地域協議会会議録

1. 会 場 平戸市役所生月支所3階第2委員会室
2. 日 時 平成27年12月17日(木)午後1時30分開会
3. 出席委員 志水委員、濱崎委員、川渕委員、富岡委員、松山委員、鴨川委員  
中山委員、米倉委員、山浦委員、伊藤委員
4. 欠席委員 岩井委員、富澤委員、松永委員、谷本委員
5. 議事録署名委員 富岡委員、鴨川委員
6. 職 員 濱田支所長、西地域振興課長、石橋参事監、船原館浦出張所長  
平松教委生月分室長、寺田地域振興課市民協働班長、山口主任主事
7. 傍 聴 人 2人
8. 審査案件等の概略及び審査結果並びに発言内容

13時30分開会

- (1) 会長挨拶  
山浦会長挨拶

- (2) 内 容

### 1. 部会報告

#### **○産業交流づくり部会(〇〇部会長より報告)**

昨年より、博物館島の館の剥製展示室の基金を活用して漁業を見せる展示にリニューアルするという決定をし、今年7月には業者が決まり準備を進めているところです。産業交流づくり部会としてはこのリニューアルする島の館を核とした地域活性化をご提案したいと思います。博物館島の館の漁業を見せる展示のリニューアルに伴い、案内ガイドや定置網や一本釣りなどの漁業体験を充実させること、また、世界遺産への対応として観光客受け入れの環境整備を行い、特に交流型・体験型観光の推進を活動グループと連携して行い、交流人口の増加を目指すこと、まずは来年のこの二つのイベント、島の館のリニューアルと世界遺産登録をチャンスとし、また一過性で終わらせないためにも、地元の魅力ある受け皿の整備が必要ではないかと考えます。

旅する人は何か面白いものを見つけないか、体験したいと思っています。滞在時間を延ばすためにも、魅力ある体験プログラムが必要となってきます。一方、博物館・資料館は全国にたくさんありますが、地元と連携して体験活動をしているところはほとんどありません。博物館が地元の活動グループとガイドや体験で連携することが島の館の特徴となり、地域の活性化に繋がることを期待しています。そして幸いなことに、生月にはいくつかの活動グループがあります。生月ボランティアガイド協会は、日常的に、観光案内やガイドを行っております。ふるさと探検隊は、田んぼの学校、畑の学校と称して、農業体験や磯や野鳥の観察隊など、フィールドワークを年間30回以上行っております。生月島体験観光協議会は中学・高校の修学旅行生の民泊や釣り・料理などの体験を行っておりますし、農産物の加工販売グループなど各々活動しているグループなどいくつもあります。島の館を拠点にこれらの活動グループと連携して魅力ある観光や、体験ができる仕組みづくりを早急に行うことが望まれております。

世界遺産の対象である春日集落や中江の島にはどのようにして案内するのか。体験も、生月島体験観光協議会が行っておりますが、中学・高校生の修学旅行が中心で個人グループやファミリーにどうやって対応するのか、これらの仕組みづくりを早急に行う必要があります。また一方で各小学校区によるまちづくり協議会の話が進んでおります。私が所属する山田小学校区まちづくり協議会の産業交流の分野でも、特産品開発、体験型観光の推進や藻場再生、まき網漁業への支援、世界遺産との連携など様々な提案がされております。まだ具体的な計画ではございませんが、これら産業交流づくり分野の提案は生月・山田両まちづくり協議会が力を合わせて取り組んだほうが良いものが多いと思います。また、各々の活動グループは、メンバーやスタッフ、事務局など、人材の不足や、資金の問題などを抱えており、まちづくり協議会の取り組みを通じて各々の活動グループが課題を解決し、全体的に実行できるような仕組みづくりを期待しているところでございます。

次に、産業、特に水産業についてですが、水産業においても他の産業同様、後継者不足、国際競争、資源の問題など、難しい課題が山積しておりますが、できることをするしかないと思っております。

まずは特産品開発ができないかと思っております。生月、館浦両漁協が主体となり、開き物、練り物などの加工品、冷凍品などの開発・販売ができるのではないのでしょうか。幸いなことに、生月漁協はこれから活イカの冷凍輸送技術や水産加工に取り組む意向を持っておりますし、館浦漁協は練り製品やアゴ加工を行っておりますが、更に今後は、まき網漁業の基地としてアジやサバなどの青物、定置のシイラなどの加工を行うことが求められております。両漁協の今後の取り組みに期待したいと思っております。

以上が産業交流づくり部会からの報告となります。

## ○環境協働づくり部会（〇〇副部長より報告）

副部会長の〇〇です。今回、会議の機会を設けられませんでした。部会長と相談をした結果、これまで通り火葬場と巡回バスの実現についてということで、この二件を今後も進めていきたいと思っております。この二件については先日行われました市政懇談会の折にもうちの部会長が提案をしましたが、なかなか思うような返事がなかったようでございます。火葬場について

は今配布しています資料に田平と平戸と生月の火葬料金が載っておりますのでそれを参考にしたいと思っております。火葬場についても平成 29 年を目処に田平まで松浦に行っていたのが平戸にということで、生月もそのようなことになるかと聞いています。この前の市政懇談会の折にも冬場のことを懸念した意見がありましたが、それはクリアできますよという市からの回答がっております。ただ、今後はですねやはり今の火葬場をなんとか、という気持ちがあるようで、うちの部会長もそちらのほうで何か協議会を作っているいろいろがんばってみようじゃないかというような思案をしているところです。そういったところを今後とも協議していきたいというようなお話です。

次に巡回バスについても生月バスがあるのでというそれだけのことで、話が先には進まなかったというようなことですが、そうではなくて、こう前向きにしましょうかというような言葉が全然ないんですよ。方法は色々あるかと思いますが、一案としてですね、ふるさと納税で車を買えとは言いませんが、そういうところを使って弱者に手を差し伸べることができないものかと思っております。部会長としての私案ということで、以上報告いたします。

### ○教育福祉づくり部会（〇〇部会長より報告）

申し訳ありません、私達の部会も会合は持っておりません。しかしながら、この生月を見ますと、高齢化率が 40 パーセント以上を超えています。高齢者を取り巻く環境という整備をしていかないといけないのかなと私は思っております。そういう中で、まちづくり準備委員会の会合の中でも、この高齢者福祉というのはたびたび出てきます。そこで健康寿命を延ばすような取り組みが何かできないかということのひとつ考えており、今、館浦浜地区では 10 名くらい集まって、毎朝ラジオ体操をしております。そこで、他の地区でも呼びかけて、健康維持の意味でもこのラジオ体操の取り組みができないものかと思っております。それから、先ほど〇〇委員からも出ましたが、高齢者買い物支援、あるいは病院に行くための手段、元気な高齢者が運転手をかって出て、ワンコインくらいで送り迎えが出来るようなシステムづくりができないかというのも考えております。

それから、高齢者は子どもたちが大好きなわけですから。子どもたちと一緒にできる何か新しい事業を考えています。教育委員会のほうで三世代交流事業が行われておりますが、ずっと続けていくためにも、まちづくりの中で、あるいはこういう地域協議会の中でどなたかが担っていかなければならない事業ではないかなと思っております。ですからそういう事業を進めて、このまちが、高齢者や障害者に優しい、元気なまちになるように推進していけたらなという風に思っております。会合もしていないで私の考えを言いましたので誠に申し訳ありませんが、以上で報告を終わりたいと思っております。

### ○会長

ありがとうございます。ほかに出席委員の方から何かご意見があれば承りたいと思っております。何かありましたらどうぞ遠慮なく発言してください。

三つの部会の提言がありましたが、これについて行政の方はどのように対応があるのか、あるいはないのか、将来こう考えているというようなことがありましたらお答えいただければと思います。お願いします。

#### ○支所長

各部会報告いただきました。それぞれにいろんな協議をして頂き、いろんな課題を考えておられるようですので、今後とも部会でしっかり協議をしていただき、実現できるものについては実現するような方向で検討していただきたいと思っております。今の報告の中で二点ほど。まずは高齢者、身体、からだの不自由な方の日常生活への支援について、コミュニティバスの件ですが、このことは以前からお話があると聞いておりますし、先日の生月地区の市政懇談会でも受けました。協議会でも二回目の協議会の中でコミュニティバスはどうかということでご質問がありまして、三回目の会議におきまして課長より、町内において市が主体となるバスは現在考えていないという回答をさせていただいております。このことについては変わりませんが、繰り返しになるかも知れませんが、高齢者及び身障者の対策については、今後部会で十分に協議をいただき、対応可能な事業があれば実現に向けて努力していきたいと考えております。

それから火葬場、人形石斎場についてですが、これも以前から前支所長と話をしたと聞いておりますし、前回の協議会で私のほうから今から皆さんと協議をしていきたいと思っておりますということで話をさせていただきました。これは市政懇談会の折の質問がございまして、担当のほうからも平成 29 年度末、30 年 3 月 31 日を以って、廃止との方向で考えているというようなこととございます。私達につきましては、今後とも地域協議会及び区長会等の同意を得まして、各地区区民会などで説明をさせていただき、住民の皆さんのご理解をいただき、実現に向けて話をさせていただければと考えているところでございます。このことについてまた部会で今後十分協議をいただければと思います。以上です。

#### ○会長

ありがとうございました。現状の報告については、産業部会においては、ひとつの意見の集約が見えているようでございますが、私の考えとしましては更に引き続き機会があれば、一回でも二回でもいいので、色々な、自分の所属している会社、あるいは団体、それから周りの地域住民の方々の色々な話も聞き取りながら協議していただき、ある程度の数を提言として出していただければなどと思っておりますが、そういうことで、もうしばらくは各部会の協議の場というものを時間を置いて提言のまとめというものをしていきたいと考えていますがいかがでしょうか。

(異議なし)

#### ○会長

そういうことで本日の協議項目 1 については取りまとめとさせていただきたいと思っておりますがよろしいですか。

○委員

再度部会の構成員を確認させていただいてもよろしいですか。

○会長

わかりました。私の手元に名簿がありますので読み上げます。

(会長により名簿を読み上げ)

○支所長

先ほど産業交流づくりの〇〇部会長さんのお話にありましたが、博物館のリニューアルの件について、前回の協議の中で〇〇委員から進捗状況について報告できるものがあれば報告してくださいと言われていました。必要であれば中園学芸員を出席させますということをおっしゃっていましたが、今回確認しましたところ、順調に進んでおり特に報告するようなことはないということでしたので、順調ですということだけ報告させていただきます。

○委員

補足説明いたします。業者が決定し、8月から準備を進めておりますが、やはり想像以上に、業者は必死に取り組んでいるわけですが、展示のプロであっても漁業のプロではないので、そこら辺で調整が必要のようです。8月から10回以上打ち合わせ会議を行っておりますが、みなさんいいものをつくろうということで取り組んでいるところでございます。

○委員

先ほどの巡回バスの件ですが、どうしても行政のほうは前向きじゃないということのようですが、行政側が実態を把握していないのではないですか。行政が手出しできないのにどこが手を出すのですか。これは、ひとつの手段としてバスを出してもらえないか、買い物も行きたい、病院にも行きたい、そういう人たちに手を差し伸べることもしないと。その辺の実態を、お年寄りがどの程度の人が病院に行くためにいくらかかっているのか調べていただいて、そうした上でできませんよと言うなら私も納得します。しかし、実態も把握せずにただ出来ないと頭から思っているのではないですか。だから私は実態を調査していただきたいとそれをこの地域協議会の中から強く要望してはどうかと感じております。以上です。

○会長

火葬場の問題にしろ、今の高齢者巡回バスにしろ、ニーズがどの程度なのかと、地域の中で本当に皆さん方が要望しているのかという把握というのは今から非常に重要な決め手になってくるのではなかろうかと私自身も思います。新しい地域コミュニティの策定委員会にも参加して、もう10年経ったのだから、町の現状についてみんなどう思っているのか、アンケートを取ってみると、それで住民のニーズを確かめてみろよと、そういう意見が全然出てこないのが不思議で仕方ありません。10年たてば意識の転換もあるし、町の年齢構成も違うし差ばかりが大きく出ていると思いますが、そういった、個別にやるのか全体的に把握するのか、その辺を含

めてアンケートのあり方というものを皆で真剣に考えてみようじゃありませんか。火葬場も一緒ですよ。火葬場の問題も、従来から言われているのは、火葬場に基金を使うならば、住民のニーズを調査しなさいという意見がここの中で現に出てきているわけですよ。今から、もし火葬場を具体的にやっていくにしても、ここの地域協議会の中で提言していくについても、やはり自分の意見はこうなんだというそれを知るための課題としてアンケートをやるというのは、必ず出てくる問題だと思います。行政ももう少し詰めて、こういうものについてしっかりと住民の意思を確認しようかというような作業を、今日せっかく出ましたので、次の会議あたりもこの方向性は持ち込んで、しっかり詰めていきたいと思っています。地域協議会でまとまって、こういうアンケートを取ると言っても経費の面ではいかがですか。予算はとれますか。

#### ○支所長

まず予算というのは当初計画を立てて予算を立てていますが、数万円の紙代とかぐらいなら、当初の計画がなくてもできないことはないと思いますが、額が大きくなれば対応できないというケースもあると思います。

#### ○会長

アンケートの内容については委員会を立ち上げて、地域協議会の中からメンバーを選んでそれから行政の方からも出してもらって、要所で何を取ろうかというような原案作りをやって、原案が出来れば一回ここに出してもらって皆さんの承認を受けて、そして実際区長さんをお願いして班長さんが取りまとめ集めるというようなことをして、そして回収した分はまた委員さんたちが手分けして集計を取るというようなことに持っていけば、そんなに経費はかからないとは思いますがいかがですか、支所長。

#### ○支所長

まあ、そういう、協議会でそういうことになってアンケート調査をしましょうということで、今おっしゃるようなことであればそう経費もかからないと思います。ただ、今いろんな福祉のことや巡回バスのようなお話がございました。確かに市の高齢者対策においていろんなことをやっております。それでも不自由があるという方のご意見だとは思いますが、各地域の課題はそこそこで違うと思います。生月もそういう問題があると思います。他はどうかわかりません。ということで現在、山田小学校区、生月小学校区、地域からの解決ということで、新しいコミュニティを立ち上げようと協議をさせていただいております。そこで、そのようなことが、地域の課題ということであれば話し合っ、地域での解決策も当然出てくるのかなと思いますので、全部が全部行政でというわけではなく、地域の意見として挙げていくということであれば行政として対応することもでてくることになるかもしれませんが、今は、協働のまちづくりを市としては進めていますので、各地域で解決できるのであれば、地域の皆様で解決していただきたいと思っています。

○委員

支所長のおっしゃることもよくわかります。火葬場の件でちょっとお尋ねしますが、29年度を目処に人形石斎場を廃止して安満岳に移ると、田平もそのような方向に話が進んでいると思いますが、この問題は、最近の問題ではありません。私が現職の時からの問題です。ということはある人に言わせれば、この生月に生まれ、生月で生活をし、生月で嫁さん进行、そしてこの生月のために、後継者を、子どもを育ててきたと。それをどうして生月で火葬されずに平戸に移らないとならないのかというわけです。人間の尊厳の問題じゃないのですか。大変重要な発言だったと私は今でも憶えています。それほどこの問題については生月の人達は関心を持っているわけです。それで先ほどアンケートの話も出ましたが、もしアンケートを取るといようなことになった場合、そのことだけではなく、ほかの事を含めた中でアンケートを取り、市民の皆さんの意見を集約してみてはいかがかと思ひます。

○会長

ここで一旦休憩をとります。

(休憩)

○会長

では再開いたします。そういうことで、各部会の中でも協議いただきたい案件がまだまだあるようでございますので、次回2月の協議会までにでもいいですが、ここ半年くらいかけて、もう一回皆さん方色々案を出していただきたいと思ひます。やはり、それぞれの部会から同じような意見も出てくるでしょうし、また違う方からの意見もどんどん出てきますから、今日ここで議論されたように叩き合っでですね、最終的にこうしてやりましようかといような意見の集約をできればいいのかなと思ひていますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員

最後にいいでしょうか。

今日産業交流づくりから出した提案は、二つとも島の館のリニューアル、世界遺産の登録も来年の4月5月に迫っているわけです。ですからこれは早急に取り組んで、担当者だけの問題ではなくて、各活動グループとの連携など色々難しい問題もありますので、そういう課題があるということをお皆さん認識いただいて、早急に取り組まなければ間に合わないということをお申し上げたいと思ひます。

○会長

わかりました。それでどうしてもこの部分で地域協議会が動いてもらえれば助かるなといようなものがあれば、2月のときにでもご提案いただければと思ひます。話の中ですべて既存の組織団体ができていますから、そういうことはいかに連携しながらやっていくかといようなところも課題だと思ひますが、その連携の仕方や、サポート機関があれば少しは楽になるといようなところがあれば、協力を惜しまないつもりでおりますので、そういうことが事業の進捗の中で出てくれれば、遠慮なくご発言、ご提言いただければと思ひます。第1協議は以上で止めたいと思ひます。

(休憩)

○会長

次に第2事項議案に入ります。新しいコミュニティづくりにかかる進捗状況についてですが、事務局より説明をお願いいたします。

～地域振興課班長より資料に沿って説明～

○会長

ありがとうございました。この件について委員の皆様よりご意見等はございませんか。はい、どうぞ。

○委員

生月小学校区ですが、今説明がありました通り現在3回の委員会を行っております。今度1月には先ほど言いましたまち歩きを行う予定でございます。これまではですね、第2回のときに、生月小学校区で大切なものをどう生かすかというような課題を投げかけていろんな意見をいただきました。次に予定しておりますまち歩きについては、生月の方倉神社から大バエまでの4キロが絶景の道100選に選ばれたということで、ぜひこのコースを今回まわって、危ない所や、いろんな場所を見ながら、大体2時間程度で行おうという案を持っております。それから今日欠席されておりますが、〇〇委員さんが、地域防災ネットワークに入っており、そこで消防団のOBや防災の資格を持っている方々と一緒に、いろんな研修をやっているようですので、生月小学校区としては、そういったところとも一緒になって今後とも行っていこうかという考えを持っております。以上です。

○会長

ありがとうございました。他にありませんか。はい、〇〇委員どうぞ。

○委員

山田小学校区まちづくり準備委員会といたしましては、まちづくりのキーワードが出来ております。キーワードは「月満ちて 生きる力あふれる三世代 世界一住みたい宝島 山田・館浦」サブタイトルが「祈りの島から漕ぎ出せ夢の海へ」というキーワードを元に、早速2月から発足する予定にしております。先ほど言っていたように、1月の中旬には住民説明会をし、1歩前に踏み出そうということで、皆さんで意見交換をしております。月満ちてというのは、生月の白月、昔から白月を重んじる地域ということで、月が満ちると幸せな気持ちになるということを表しています。三世代はですね、子どもから高齢者までのつながりを大切にし、世代に関係なく誰もが主役、まちづくりに関わることができるということで三世代というキーワードを入れております。祈りの島は、隠れキリシタンの歴史、色々な文化や産業に対するお祈りで、手を合わせる事が習慣的な地域だということでこういうタイトルをつけております。もちろんそれぞれの部会から出してもらった課題を検討しながらつくっておりますので、その課題を元に計画を策定し、新しく出来るまちづくり協議会で活動をしていきます。まだまだ歩き

始めたばかりですので、どのような展開になっていくのかは皆目見当もつきませんが、1歩1歩足を地に着け、あまり飛躍はせず、できることから少しずつやっていければなということだと思っております。一足先に踏み出しましたが、もしかしたら生月小学校区が追いつくかもしれないし、お互い発破を掛け合いながら、いいまちにしていければということだがんばっていきたいなと思っております。先ほども言いましたが、住民の意識改革、これを最も重点に掲げてやっていかねばこのまちづくりは成功しないんじゃないかなと思います。アンケートをいただきましたが、60パーセントの方がこのまちづくりには大いに賛成ですということで、40パーセントくらいの方が、まちづくりに参加したいという意向も持っているようでございます。しかしながら、考えを持っていても中々踏み出して協力しようというのは難しいと思っておりますし、私達が手を添えていかなきゃいけないという考えを持っておりますし、やはり声を掛け合って、ひとつでも多くの方々にまちづくりを行っていくことが大事じゃないかなと思っております。それぞれの団体で今やっているようなことはそれぞれの既存の団体がやっているのです、そういう団体との連携を密にしながらかやっていけたらと思っております。私の考えをお知らせしたいと思っております。よろしく申し上げます。

#### ○会長

ありがとうございました。他の委員さん、今、各小学校区の立ち上げに携わっている区長方から今の進捗状況について報告がありましたが、お聞きしたいこと、何かご提案、ご提言したいことがありましたらどうぞご発言をお願いします。はいどうぞ。

#### ○委員

私も山田小学校区のまちづくり協議会の中に入っておりますけども、これからやっていくにあたりものすごく大変だなというのはやっぱりしみじみと思っている次第ですが、今後、市の方の協力といいますか、どこまで協力するのか、ただ投げやりで終わるのか、そこら辺がちょっと見えなところがあるので、定着するまで支援するよ、協力をするよ、ということを考え、どこまで考えているのかなと思っておりますが、そのところをよろしく申し上げます。

#### ○地域振興課長

私の知りえる範囲でのお答えしか出来ませんが、お答えいたします。現在準備委員会でございますが、この後、住民の賛同を得て、本当のまちづくり委員会がつくられるわけです。そのときになりましたら、専用の事務員ですね、そういうのも専用になりますので、従いまして、現在山口や寺田を始めとして市職員がしています事務、また地域支援員として市の職員がそのときに来ていますが、そういうのは立ち上がった段階で市からの専属の職員というのは配置いたしません。しかしながら市の職員もその住民の一人ですから、その関わりはあると思います。ただ、じゃあ全部知りませんよということにもなりません。それで地域協働課、本課がありますのでそこからの支援なりもあるかと思っておりますが、そこはその時その時に応じて話し合いがなされるのではないかと思います。今、度島が立ち上がってしましてその例からいうと、

地域協働課の職員が大体週一回のペースで行って、色々助言なり話を聞いたりしているということ聞いております。

#### ○委員

○○委員にお尋ねしますが、商工会にイルミネーションを設置していますよね。毎年毎年感心だと思いましたが、経費はスタンプ会を出しているというようなことを聞いています。館浦の方も出すのかと聞いたら、館浦は区長さん辺りが中心になって設置していると言ったものですから、偉いことを考えたなど、この事業は毎年毎年続けなければいけない事業であるし、役員さんあたりは率先して事業を進めていかないといけない立場にあるわけですが、なかなか大変だろうと思いますし、あとは経費ですね。どのぐらいの経費がかかっているのか、お答えできる範囲で結構ですのでお尋ねしたいと思います。

#### ○委員

確かに継続するとなると大変だと思います。そして最初の手始めはやはりお金が要ります。あとはそんなにかからないのですが、経費については、最初は市からのまちづくり補助金を申請しました。このまちづくり補助金が40万円の限度額であったわけですが、まちづくり補助金もイルミネーションを取り付けるためだけの補助金ではなくて、地域の防災、色々なことを含めて、地域を活性化しますよというそういう種類の補助金です。その中で各地区に防災用品の割り振りがあったわけですね。その防災備品も館浦の場合には4で一つしか発電機は無かったわけですね。ですからそういった部分にも活用できないかということで、山田小学校のこのまちづくりを見越して、発電機やテント等を購入し、残りをイルミネーション購入に充てたというわけですね。

もちろん不足分は4区で振り分けて出しています。それで今年も2年目ですが、やはりもう少しイルミネーションを盛り上げたいということで、行政の方の補助金を活用しましてイルミネーションを買い添えました。

スタンプ会も私が真っ先にしたのですが、最初はスタンプ会の役員でしていましたが、段々高齢化が進むことにより、現在は商工会青年部にいただいています。青年部にスタンプ会から手数料を払い、もちろんイルミネーションの増設等はスタンプ会が出していますが、そういう風にしてずっとスタンプ会は壱部と館浦とやっていたのですが、もう館浦は花公園で区が主催してやりよるということで館浦はしていない、そういう状況です。

#### ○地域振興課長

今の件、せっかくの補助のことがありましたので、皆さん方にその補助があるよと広くお知らせしたいものですから、担当の方からその補助金について説明をさせます。

#### ○地域振興課主任主事

今説明がありました分、平成26年度に元気づくり交付金というものが各小学校区のほうに交付されるということで本庁担当会より話がありました。生月小学校区、山田小学校区、ま

ちづくりのコミュニティの実現を目指すという意味合いでの元気づくり交付金でしたが、生月小学校区については、勇魚捕唄保存会の太鼓が老朽化しているということで、そちらに充てたいということをお話しましたが、区長さん方と話し合いをして頂いて、そちらに交付金を充てています。館浦については、話を聞くところによると船員福祉会館の前のフェンスにイルミネーションを今まで設置をしていましたが、そのフェンスが撤去されたこともありまして、イルミネーションを設置する場所がなくなったということで、区長さん方と話をしてお話をしてその交付金の活用をしてイルミネーションを新しく設置できないかということになり、交付金を活用させて頂いております。平成 27 年度に関しましては、イルミネーションの量が足りないということもあり、補助金のご相談にいられました。それで、いろんな団体が連携して行う事業に対して補助をするネットワーク補助金というものがございます。複数団体と一緒に連携をいたしまして、最高限度 10 万、各団体に 10 万ずつ、3 団体であれば最高限度 30 万の補助があります。ただし 1 割は自己負担となっておりますので、その点にご注意頂きたいと思いますが、いきいきサロン等ありますが社協等にもそういった話はしておりますので、そういった団体と連携をして頂いて、たとえば出かけるときのバスの借り上げ等に補助出来ないかというようなそういう話もっておりますので、ここでご説明をさせていただきます。以上です。

#### ○委員

○○委員の質問に関連してですが、まちづくり協議会本会になった場合に、行政の事務局、それと地域支援員は一旦そこで終わりというご説明でしたが、このまちづくりというのは非常に難しい事業で、私の感覚としては、行政と、民間とが一体になって、それこそ協働精神で行うべきだろうと個人的には考えていますが、本協議会になった場合に行政の立場としては、ただ単純に助言する、アドバイスするというような立場だけなのではないでしょうか。例えば一般市民的での関わりとおっしゃいましたが、一般市民として委員の中に名を連ねて一緒に汗をかくみたいな、まあそういうことは考えてないのでしょうか。お答えをお願いします。

#### ○地域振興課長

委員に名を連ねられるかというのはすみません、私がお話の答えを存じ上げておりませんので、ここで明確なお答えは出来ませんが、まちづくり協議会が立ち上がれば、きちっとした団体でございまして、全てその専属の事務局、それから集落支援員ですね、そういうのも全て経費的には交付金の中で見ますので、そこがもう事務局となります。それでこの行政の職員が、職員として、行政の立場で入るかといったら、今のところ私も存じ上げる範囲ではそれは入らないのかなということになります。ただし、職員は全て地域住民ですから、その地域住民として関わることは十分出来ると思いますが、仕事として今みたいにきちっと毎月出てくるとか、そういうことというのは個人の判断になると思います。

#### ○委員

それはもう重々わかります。まあ、できたら行政の組織というのは、この地方においては一番大きい人材も抱えた組織ですから、やはりそこも関わっていただいて、エネルギーを得る要

素じゃないかと思っておりますので、ぜひ行政の立場としても、一市民として積極的に関わるようにご指導頂きたいとお願い申し上げます。

#### ○支所長

新しいまちづくり協議会が立ち上がりまして、その地域の課題や問題がその協議会で話し合い、解決できるものは解決していくというまちづくりを進めております。ただ何もかもそっちではなくて、当然行政がすべき仕事もありますのでそこら辺はお互い協議をしながらすすめていかなければいけないと思っています。自分たちで解決出来る分は、まちづくり協議会で話し合い解決して頂き、それ以外、お互いが協力しなければいけないもの、行政がすることもございますのでそこはきちんと行政が対応することになるかと思っておりますので、そういうことではご理解いただければと思います。

#### ○会長

私は新しいコミュニティについては、すでにこの協議会で2、3回説明を受けていますが、各地区出来てしまえば、原則の部分行政の役割、関わり合いってというのは、説明の通りなくなっていくと思っています。当然それが行政の、行財政改革の狙いですから、後はあなた方がやりなさいと、その中でそういう要望は聞きますよというのがおそらく今後のスタンスだろうと思っています。だからそこをふまえた上でまちづくりをやっていくしかないとは考えております。それで地域協議会として出来ることは、各山田区あるいは生月区のほうから協議会を進めるにあたって今みたいな〇〇さんのご意見みたいに、今後の行政との関わりというものが出てくると思います。それをどう調整しながらどうまちづくりを進めていくかも重要で、住民の意識改革の間に、これだけは少なくとも行政にがんばってほしいという要望が出てくれば、そこに我々の役割が出てくるのではないかと思います。進めていく中で、地域協議会はこの形で参画してくれないかというのは、今のところ出てきていませんが、それは独自のお考えで進められていると思いますが、どうしても行政との関わりじゃない範囲、それから今後自分たちがそれだけやったときに今までの行政はどうなるのかということに対しては若干の不安と危惧が各団体も持たれていると思います。そこは何か協力を得るときは得られたりある提言を求められたりすれば、そこはそこで役割として動くものがあるのではなかろうかというような考えは持っていますが、まあ進んでいけば行政改革の一環としてやっていることですから、平成30年、31年を目処に、結局これは生月支所の人減らしに繋がっていくことはまず間違いないですから、そのことを踏まえてどう対応していくかというのも問題だろうと私は思っています。今はトップダウンがやるという部分が非常に強くなっているということは皆さん方もこう肌で感じておられますが、私もここ一年間の動きの中で、成人式の合同開催なんかも、その経緯辺りも聞いていますと、もう説明したからと、だから地域協議会は承認したものだというような受け止め方で進んでいます。ですから、皆さん、再度資料を振り返ってみてください。最終的な姿はそこにあると、それを理解した上でそれを割り切った上で自分達がやるのだというような気持ちで取り組まなければ後からどうこう言っても遅いのではないかと思います。その中でそれでは困るから、ここは地域協議会でやってくれないかというところがあれば、皆

さん方と一緒に図を固めてやっていきたいと思っています。ですから進める中において、地域協議会の中でやってもらう要望事項なり、その提案があればどんどんおっしゃって頂きたいと思います。大変ですよ、正直言うと。誰も今までやったことのないことをやろうとしているのですから。それだけの覚悟が必要です。

支所長にお伺いします。最終形というのは、行財政改革の中で新しいコミュニティの資料もありましたが、権限も財源も与えます、その代わりこの部分もやってくださいと。条件がありましたよね。それはその通り実行するという姿勢ですよ行政は。

○支所長

この部分をやってくださいという条件についてはよく分からないところですが、交付金は出しますということで、私達が聞いているのは敬老会行事と防犯灯、これについては、現在、補助金を交付していますが、今後はそれをこの交付金の中に組み込み、それ以外は世帯割り、人口割りで交付金を算定し、使い方は自分達で考え、先程から言うように地域の課題解決のために使うとか、何かを行事をするために使うとかということで理解しております。

○会長

行政の人減らしも入っているでしょ。

○支所長

これはですね、それをするからどうのこうののではなく、全体的に定員適正化計画が市全体でありまして、それに基づき進めていくということで、これが立ち上がったからこう減りますということにはならない、計画に基づいた多少の減はあろうかと思いますが。

○会長

分かりました。一旦休憩いたします。

(休憩)

○会長

休憩に引き続き再開いたします。他に意見も無いようですので、まちづくりの進捗状況につきましては以上の報告をもちまして終わらせて頂きます。

次に三番目、その他の件ですが、委員の皆さまから何かご意見等はございませんか。

○委員

成人式についてのご報告をさせていただきます。これは案ですが、実はある有志がおりまして、今回の成人式を何とかしてやろうかいというような方々がおられるようです。平戸での式典が終わってから生月に帰ってきて二次会をする前に、生月中学校体育館を利用して、今まで生月であった成人式の風景をやったらいかがだろうかということで、体育館の許可までは申請出来るということ、そして準備については、保護者の方にお問い合わせいただければというこ

と、それから、生月の小中学校生が、これまでメッセージを言っていましたので、それもお願ひすれば可能であると。そしてこれまでは勇魚太鼓をやっていましたが、謝礼の関係がありますので、それに代わって小学生か中学生が、成人式にふさわしい演奏が出来たらなってしまうようなことも、案ではありますが考えておられるようです。そしてこれが一番大事なことです、成人者がそれを受け入れるかどうか、今のところ、全部のほうに連絡が行っていないようですので、それを受け入れてくれれば、すると、いらないと言うようならしないというような状況ではありますが、なにせ、もう日にちがないものですから。それで、このことを地域協議会に諮るのではなく、これまでいろんなことで皆さん方に成人式のことについてご心配をかけたので、報告をと思ひましてお話しをした次第です。なんで中学校かというのが、まず開発センターでは職員も3日の日には待機が出来ないような状況だということもありますが、現在の中学校体育館というのが、今年の成人者が最初に卒業したということで中学校を考えているようです。準備についても、保護者をお願いしたいということですが、参加できる方みんなで応援しながら、とにかくお金のかからないことを前提にして、何かお手伝い出来ればなということ、有志者ががんばっておられるということで、以上報告させていただきます。

#### ○副会長

その成人式の件に関してご質問ですが、10月に平戸市市政施行十周年記念がございました。私もその会場に出席していたわけですが、たまたまその日は大変天気が悪く、大島地区からも郷土芸能の参加される予定の方が、荒天のため船が通わなくて参加できませんでした。1月3日に成人式が予定されておりますが、行政といたしまして、どうしても天候が悪いということも想定出来ますので、そういった荒天時の対応策っていうのを考えているのかどうか。橋についてはよほどのことがなければと思いますが、荒天の時の対応策というのは考えてないでしょうか。ご質問いたします。

#### ○教委生月分室長

〇〇委員のお尋ねですが、生月についてはその辺までは考えておりません。生月大橋が通れないというのは想定をしておりません。大島については、荒天によってはそういうことがありますかとも思えます。しかしそこについてどう対応するかというのは今のところ私のほうには話は入っておりません。

#### ○副会長

わかりました。特に大島の方が、折角平戸で合同開催されるのに、万が一船が通わなくなったということになったとき、成人式は島ではもうしないのかなと思ってですね。先ほど〇〇委員さんからご説明があった通り、生月でも有志の方が成人式をしてくださる予定があるということで私も安心はしましたが、そういったところまで考えて頂ければありがたいなと思っております。以上です。

○教委生月分室長

聞くところによりますと、大島は今まで通り地区での成人式をやるということでございますので、そこら辺もし万が一荒天の場合には、対応できるのではないかと考えております。

○会長

〇〇委員にお尋ねですが、今年の場合はサポート者がいて、平戸市で終わったあと生月でといった感じですが、今年に限ってですか。

○委員

その件についても話し合いましたが、とりあえず今回だけということで、理由は、皆さんに通知する時間がとにかく短かった。あまりにも成人者を度外視したような、一方的に行政がどんどん進んだ関係で子どもたちが非常に大変だなという気持ちを、私らが持っているものから、とりあえず今回だけはやってみよう。それで皆の意見があればまた来年からでも出来るのではないかなということ考えております。以上です。

○会長

他にありませんか。はい、〇〇委員どうぞ。

○委員

職場とか業界からの意見・要望ということでもよろしいでしょうか。

水産業では、漁業者の高齢化、後継者不足が深刻化しております。館浦漁協所属のまき網船団はあるわけですが、ここの従業員が 300 名からおります。ただ、乗組員も高齢化しており、現在はそれを補うために外国人実習生を活用し、インドネシア人の若者が乗船しておりますが、その実習生は人数的にも期間的にも限定しており、やはり主力は地元で後継者を育てなければいけないという認識を強くしております。産業を継続していくためには人材を育てなければいけないということで、長期的な後継者対策として、平戸市内に水産業の専門的な学びの場が必要ではないかという意見がまき網業界から出ております。

工業高校、農業高校は、それぞれの分野に貢献する人材を送り出しておりますが、市内に猶興館、北農、平戸高校がありますが、その中で水産業に限らず、加工や流通、観光業など、地場産業を学べるような場所が出来ないかと要望する次第です。どのような仕事をして、いかに生きていくのかというのは、高校の選択によって大きく左右されます。都会に目を向けるだけでなく、価値観や仕事、それと社会貢献の仕方があるということを学べる場をつくって頂きたいと思うわけです。

先日、県の定置漁業協会で勉強会があり、その講師で静岡県伊東市の網代（あじろ）の定置漁業というところの代表者が来て説明されたのですが、その定置は、平均年齢が 31 歳だそうです。その仕組みというのは、やはり近くに水産高校があつて、在学中から交流を行い、その従業員はほとんどがその水産系の高校の卒業生を中心にとということで、まあ平均年齢が

31歳ということで、やはり人を育てて出来るだけ地元に戻れるところにそういう学びの場があって、地域に貢献出来る人材を輩出できないかこのような要望をする次第です。

#### ○会長

漁業協同組合はまあ政治力もあるでしょうから、県や水産庁、今のお話だと北農や猶興館、平校に、水産学あるいは水産加工か水産経営の類の教室を設けて頂きたいというようなお話だと思いますが、生月の水産業団体というのはものすごい伝統と力を持っているところだと思います。その団体長さんあるいはまき網の関係者、ここら辺の教育当局辺りとそういう部分で話し合いをなされたことはないのですか。

#### ○委員

こういう話題はいろんな面で出てくるわけですが、具体的にこれをやろうということで、色々取り組んだということはないと思います。平戸市内にあるのは県立高校ですから、県立高校の教育委員会に語りかけなければいけないとは思いますが、まずは地元でこういう意向があるということをご理解頂いて、市を通じてそういう取り組み、また業界の足並みを揃えて取り組むべきだろうと思っております。

#### ○会長

そのことで地域協議会、こういう内容で何かやってももらえないかという具体的なものがあれば、それは今後お聞きしていこうかと思えます。それから、水産業の後継者問題、これは先ほど〇〇委員さんもおっしゃっていましたが、人の考え方の改善や対策と言うのかな、地域住民の漁業に対する感覚、これをどう変えていくのか。ここが一つのキーポイントだろうと私も思います。もうとにかく漁業はいやだと、やらせないという意識がものすごく強い土地になっていますから、何を持ってきても漁業がいいというのはそこに住んでいる人がそういう意識を持たないことには子どもたちに伝わらないと思います。その辺の運動を地道にどうやっていくのかというのを、私は大きな課題だろうと思しますので、その辺も知恵を出してください。

#### ○委員

そこを含めての教育のあり方だと思います。中学までは割と地元志向が結構残っているわけですが、やはり高校になって、都会志向という風に皆憧れていく、そういう価値観が強くなっていますので、それだけではないということを、地域と共に育てていかなければ中々厳しいのではないかと考えています。

#### ○会長

そういう点では〇〇委員の住民の意識改革を図るところに私達も期待しております。がんばって頂くしかないと。こういったことにも影響してくるのではないかなという期待感がありますのでぜひがんばっていただきたいなと思えます。

### ○副会長

度々すみません、2つご質問があります。1つは山田小学校区で1年間で生まれた子どもの数ですね、それが聞いたところ1人しかいなかったということを聞きました。それで必然的に6年後には、小学生が山田小学校区には一人、理屈で言えばですが、になる恐れがある。そうしたときにいわゆる小学校両校ですね、生月小学校と山田小学校の統廃合の可能性も考えていけないといけないのか、前以って考えていってもいいのか、それが1つ。

あと話はまた変わりますが、牛を飼われている方と昨日話すことが出来まして、今牛のメーカーですね、今結構値段があがって取引されていると聞いています。BSEが広がった時の33万とか35万よりまあ最低でも60万、65万、80万近くまでですか。それで、その方が危惧しているのが自分の代で終わりだと。子どもは値のよかときに全部売ってしまえと。自分はもう牛飼いたくないから。折角いい値が来ているときに、後継者がいないということもやはり心配しなければならなかった。漁業もそうですが農業のほうもそうだと思います。そういった問題があると考えさせられます。そういったところをどのように政策が考えられているのか併せて質問したいと思っております。

### ○委員

私からもいいですか。保育所がいつ認定子ども園になるのか、前回の会議のときに認定子ども園のことをおっしゃっていましたが、認定子ども園となると山田保育所の設備をいろいろ変えないといけないし、先ほど言われた子どもが減っている中で、そこまで必要とするのかなと思いますので、少し伺いたいと思います。

### ○地域振興課長

現在の予定では、以前に生月の保育の関係で、あり方検討委員会等の会議を経て、山田保育所を認定子ども園にすると、生月保育所は廃止ということで、そういう方針で進んでいっているわけですが、現在の所は、山田保育所を改修して、平成29年度から認定子ども園を開設するということです。現在のところ、幼保連携型のため、なくてはならない設備等が必要になるので、それらを踏まえて28年度で改修を予定しています。

### ○地域振興課参事監

畜産の関係についてですが、11月のせり市においてですが、平均価格が74万円という信じられないような価格になっています。昔はせり値が30万からでした。今は50万～60万のせり値ということで好景気になっています。平戸市としましても、今月の12月4日に中央公民館において、平戸式もうかる実践式支援事業の説明会を地域の畜産農家の方々を集めて行っています。国や県の事業については、30頭買えば自立できるだろうという基本的な考え方がありますが、メニューで申しますと、平戸牛産地協力緊急対策支援事業、平戸牛供給力強化支援事業、いずれも牛の増頭対策、それから導入への補助や牛舎の建築費用など、資金面での補助メニューにふるさと納税を活用して畜産に力を入れていきたいと考えている。生月においては、昨年

ヘルパーの組織化もされており、面倒を見ることができないときには、そういったヘルパーを活用できるようになっている。

#### ○地域振興課長

小学校の統廃合の件ですが、前々回の折に質問があり、前回お答えを差し上げた中で、小学校の統廃合の条件についてお答えいたしました。そのときに、現段階では条件は決まっておらず、平成 27 年度中に平戸市学校等適性規模検討委員会を設置し、その検討後、次年度以降計画策定に入る予定ということで話をしていました。それで、27 年度中に検討委員会が開催されたかどうかというのを今調べておりますので少々お待ちください。

結果がわかりましたので、ご報告させていただきます。12 月 2 日に一回目の検討委員会が開催されております。その中で、どの方針に決めるかというような具体的なことはまだ決まっていないということで、これからも進めていくということですのでお伝えをしておきます。

#### ○会長

ほかにありませんか。

私から一つすいません。ある会合で役所の OB の方と一緒にになりまして、先日から問題になっておりました市道の除草作業、公園を含めた除草の件で説明を受けましたが、その海岸の除草も夏にしましたよね。していないという、そういう見方をしているわけですよ。なぜしていないと評価をするのか、私は先日会議の中で、こういう話を聞いてしているそうですよと言っても聞こうとしない。今、行政に対して住民のフラストレーションが溜まっているのかなと思うんです。そういう感覚を受けました。せっかく今まちづくりをやっている、その中で非難される部分があるでしょ。課題等が出てくるときに、これはやっているのに、住民に周知されていない部分があるというようなことが出てきていると思います。現在嘱託員便で月に 2 回、回覧板がまわっているのですから、住民に周知されていないようなことをそこで周知させたらどうか。聞くところによると結構ひどいですよ。人間が減らされて、何にもしなくなったから、草は生えっぱなしでまちは汚くなっていると、住民も印象を受けているわけですよ。OB がそういうのですから、一般の住民はもっと思っていると思いますので、そのところはよろしくお願いします。

#### ○委員

生月婦人会では、ツーデーウォークとロードレース前に支所前の海岸線を除草するのですが、昨年はしていません。ゴミ拾いは実施しましたが。以前、道路の草が生い茂っているような話をした際に、そこは県の管理だからということと言われて、それでかどうかは分かりませんが、昨年はしていない状況です。個人的には県がつくっても市内の道路だから市が管理しないのかなと思っているところです。

#### ○支所長

確かにそういう話をよく聞きますが、ただ我々も予算の範囲内で出来ることはやっていますし、県道については、本来は県の管理になろうかと思いますが、職員が出て除草作業を行っています。確かに少なくなって、全てを職員でというのは無理がありますが、我々もやっていますので、地域の方々もその辺でご協力いただければと思います。

#### ○委員

草と言うものはこれからの時期はそんなに茂ってきません。おそらく生い茂っているところばかり見ているんじゃないんですか。時期的にも、春から夏にかけてが生い茂ります。ですから、その間隔を、冬場はなるべくせずに、生い茂る時期に何回もしたらいいと思います。

#### ○会長

そうですね。住民が日々感じていることを、行政に反映されていないものですから、やはりお金を上手に使う工面が足りなくなっているのではないかと思います。その辺に住民のフラストレーションがあるのかなという気もしますし、こういうのは無くして行かないと先ほどから言われている住民の意識改革に繋がらないのではないかと思います。今から民が一生懸命になるのに対して、行政もそれなりにサポートして、違った目線で住民から不満を持たれないようにやっていくというのも、官民協働でやる仕事ではなかろうかと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

#### ○委員

今の現存する団体で、最も元気なのは老人会です。年に2回ほど掃除していますが、1時間足らずで終わりますし、その集まる数はすごい数ですよ。ですから、この老人パワーを活用しないといけないと思います。7月に町内清掃を年に1回やっていますが、すぐ後から草は生えてきますよ。その後に老人会活動の一環として、そういう声かけをしながら、老人の皆さんを集めさせると喜んでくれますよ。それから予算内でお茶やお菓子を出すとかですね。やはりこういう老人パワーを活用するとまちはすごくきれいになると思います。ですから、今後まちづくりを進めていく上では、老人クラブとの連携が第一だと思います。会員数も多いですよ。高齢化も40%以上進んでいる状況ですから、高齢者を中心としたまちづくりを進めるなら、老人クラブは欠かせない存在だと思います。

職員がしているのを私はいつも見えています。しかし数が少ないからいつまでも時間もかかるわけです。1日か2日で終わるためには、大人数でやらないと作業が進まないと思うので、そういう呼びかけを、行政と地域が密になってやっていくことが大切だと思います。

#### ○地域振興課長

今の委員さんの発言は、私たちにとって大変ありがたいお言葉で、まさに今私たちが進めているまちづくり、いわゆる協働がまさにそれだと思います。市道だから行政がすべきという意見もありますし、それがこれまではとおってきたが、なかなか難しい時代になってきたもので

すから、現在進めているまちづくりの中の事業の一つとして清掃を地域と行政が一体となってやっただく、やり方はいろいろあると思いますが、やはり前向きな考え方も必要になってくるかと思しますので、ぜひよろしくお願いたします。

○会長

いろんな知恵を出し合えば、きっといい方向に進んでいくことと思しますので、そして、今日いろいろ全般話されたこと、それぞれの分科会の中でも、十分協議いただく内容もあったろうかと思しますので、時間をかけても結構ですので、最終的に地域協議会は何をしないといけないのか、何が必要なんだということを探していこうと考えていますので、みなさんのご協力よろしくお願したいと思します。

大変長時間になりましたが、以上で本協議会を終了いたします。本日はありがとうございました。

16時20分 閉会

9. 会議の公開

公開する

10. 会議資料の名称及び内容

- ①平成27年度第4回生月町地域協議会資料（レジユメ）
- ②各地区における新しいコミュニティの進捗状況
- ③平戸市火葬場条例（追加資料）
- ④平戸市田平地区斎場利用支援事業補助金交付要綱（追加資料）

11. 会議録の作成の職員氏名

平戸市生月支所地域振興課

主任主事 山口 美津穂

平成27年12月17日

会議録署名委員

富岡 敏

鴨川 周二